

24 我が街 船橋を歩く—神社仏閣(22) 入日神社—

29期 仲田 元昭

前回ご案内しました海神念仏堂より千葉街道（旧佐倉道）に出て、JR西船橋駅方面に徒歩5分程、総武本線と交差した北側にある、旧海神村の鎮守、入日神社をご案内します。

「入日神社」

入日神社は、旧海神上組の鎮守で、ご祭神は天照大神と日本武尊です。創建時期は不明ですが、古事記や日本書紀に書かれている日本武尊の伝説から、西暦100年頃、日本武尊が東征の際、上総の国から海路で下総の国に入り、上陸した場所がこの地であるといわれています。

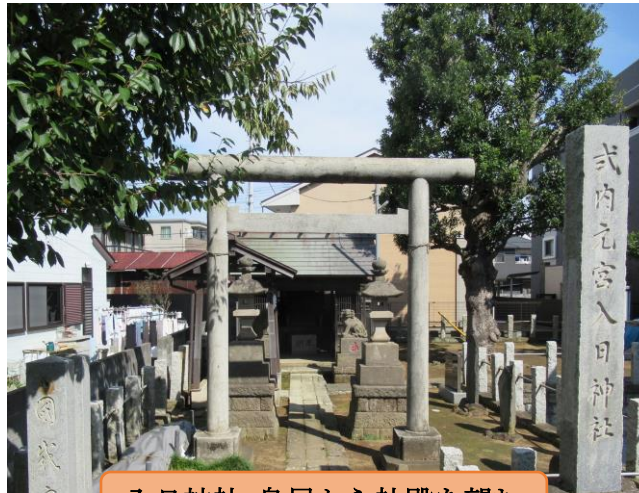
その後、村人によって日本武尊の上陸を記念し、併せて郷土守護、五穀豊穡、豊漁の神として社を建立し崇拝して来たのが入日神社です。

この神社は「式内元宮」といわれており、小さい神社ですが、千木（屋上の先端が伸びて交差した木）、かつおぎ鰹木（棟木上に横たえられた円柱状の鰹節に似た木）を持つ伊勢神宮に代表される神明造りの立派な格式の神社です。

「入日神社の名称の由来」

「入日神社」の名称は、「伊勢神宮」の内宮を「朝日の宮」というのに対するものであるという説と、東にある式内社「意富比神社」（船橋大神宮）から見て西の夕日の沈む方向にあるからという説があります。

昔は見晴らしがよく、海への入日（夕日、落日）が大変美しく見えたのでしょう。つい最近まで海神の高台（昔は砂丘）から、夕日に沈む真っ赤に染まった綺麗な富士山が見えたようです。



入日神社 鳥居から社殿を望む



千木

鰹木

入日神社 神明造りの社殿



拡大写真

耳と腰に渦巻状の彫刻が特徴の狛犬